

# 決算 ランキング

②

企業が手元資金の確保に向けて借入れを増やしている。2020年6月末時点で純有利子負債の増加額が大きかった日本企業をランキングしたところ、多額の設備投資や研究開発費を必要とする自動車や、固定費が大きい航空などインフラ業界が目立った。

純有利子負債は、長短の借入金とリース債務などを合わせた有利子負債から、現預金や短期有価証券、営業貸付金などを合わせた手元流動性を差し引いた金額。外出自粛による企業活動の停滞から流出が続く現金を穴埋めするために負債を積み増しており、3月末に比べて金額が膨らんだ。

## 純有利子負債の増加額 自動車が上位

# 電動・自動運転…投資重く

純有利子負債が増えた企業

順位	社名	純有利子負債増加額	20年6月末の純有利子負債
1	トヨタ自動車	23,554	172,109
2	NTT	5,275	42,242
3	第一三共	4,658	(1,579)
4	三菱重工業	3,950	14,673
5	アイシン精機	3,877	6,523
6	NTTドコモ	3,703	2,661
7	東京電力ホールディングス	3,464	45,115
8	日本航空	2,480	1,103
9	三井不動産	2,415	35,463
10	デンソー	2,401	1,077
11	ホンダ	2,384	50,357
12	ソフトバンク	2,323	41,055
13	関西電力	2,123	40,466
14	日産自動車	2,083	64,733
15	大和ハウス工業	1,816	10,075
16	三菱自動車	1,803	800
17	ANAホールディングス	1,778	7,820
18	JR東日本	1,701	30,196
19	パナソニック	1,677	5,875
20	KDDI	1,607	12,495

(注)単位億円、20年4～6月期決算を公表した主な3月期決算企業(金融や日本郵政、決算期変更など除く)が対象。増加額は20年3月期末比。会計基準や連結・単独などの変更は考慮していない。()の数字は有利子負債を手元流動性が上回る超過額を示す。14日時点、日経NEEDS調べ

1位のトヨタ自動車は、来季の種まきへアクセスを踏み続けるとしている。2兆3554億円増加し、純有利子負債の総額は1兆2109億円となった。4月にメガバンクなどから計1兆2500億円を借り入れ、手元資金は6兆8015億円と1兆1040億円増えた。

自動車業界は100年に1度の変革期といわれ、電動化や自動運転などの「CASE」関連の投資を減らしにくい。トヨタも21年3月期は大幅な減収が避けられないが、研究開発費を1兆円超と過去最高水準を維持する。豊田章男社長は、未

14位の日産自動車は巨額赤字が続く。コロナ禍への手当てだけでなく、通期で前年並みの5300億円程度を計上する研究開発費ものしかかる。日産、仏ルノーと3社連合を組む三菱自動車も16位にランクインした。

4位の三菱重工業は民間機部品の低迷やプランが悪化。21年3月期(国際会計基準)の営業キャッシュフローはCF計算書の開示以来、初の赤字となる見通し。不足する現金をコマースャルパー

17位のANAホールディングスは借入金や融資の資金確保に動き、手元流動性は2・4倍に拡大した。今は劣後ローンによる調達も検討中だ。

純有利子負債の増加は回復局面で投資拡大や株主還元などに制約がかかるリスクもある。

8位の日本航空(JAL)はコロナ問題が顕在化した2月から6月末までに取引銀行などの借入れを含めて約3000億円の資金を調達した。また2000億円の融資枠(コミットメントライ

詳細なランキングを電子版マイケットにQRコードを読み取ると表示されます。



詳細なランキングを電子版マイケットにQRコードを読み取ると表示されます。